

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-091304

(43)Date of publication of application : 06.04.1999

(51)Int.Cl.

B60B 33/00

A61G 5/02

B62B 5/02

(21)Application number : 09-256279

(71)Applicant : SHIMOMURA SHUICHIRO

(22)Date of filing : 22.09.1997

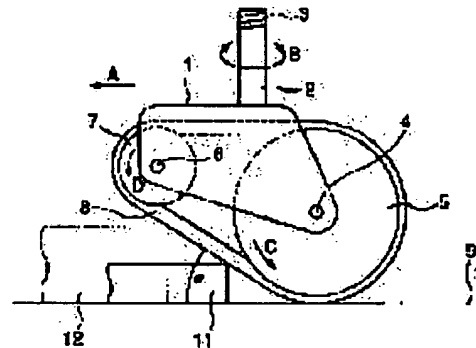
(72)Inventor : SHIMOMURA SHUICHIRO

(54) CASTER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To smoothly run by low labor even on a step.

SOLUTION: In this caster, a main shaft 4 is placed at the rear lower end of a bearing part 1, and a main wheel 5 is rotatably provided around it. While, an auxiliary shaft 6 is provided at the front lower end of the bearing part 1, and an auxiliary wheel 7 is rotatably provided around it. The auxiliary wheel 7 arranged away from a floor surface 9 on which the main wheel 5 runs. The main wheel 5 and the auxiliary wheel 7 are interconnected through a belt made of elastic material such as rubber on their outer peripheries.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 22.09.1997

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 10.10.2000

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-91304

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月6日

(51) Int.Cl.⁴ 識別記号

B 6 0 B 33/00

A 6 1 G 5/02

B 6 2 B 5/02

5 1 1

F I

B 6 0 B 33/00

A 6 1 G 5/02

B 6 2 B 5/02

X

5 1 1

C

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平9-256279

(22) 出願日 平成9年(1997) 9月22日

(71) 出願人 594111568

下村 修一郎

大阪府東大阪市御厨南2丁目1-35

(72) 発明者 下村 修一郎

大阪府東大阪市御厨南2丁目1-35

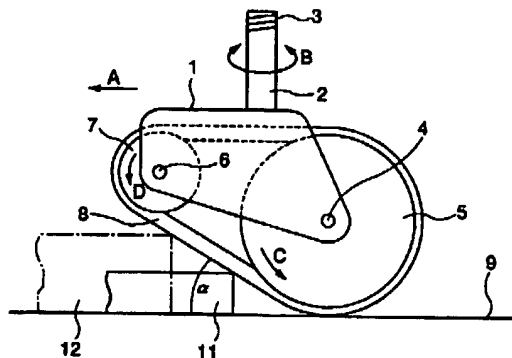
(74) 代理人 弁理士 佐野 静夫

(54) 【発明の名称】 キャスター

(57) 【要約】

【課題】 段差があっても少ない労力でスムーズに走行する事が可能となるキャスターを提供する。

【解決手段】 軸受け部1の後部下端には主軸4が設けられており、その周りに回転自在に主車輪5が備えられている。また、軸受け部1の前部下端には補助軸6が設けられており、その周りに回転自在に補助車輪7が備えられている。この補助車輪7は主車輪5が走行する床面9から離れた位置に配置されている。そして、主車輪5と補助車輪7は、それぞれの外周においてゴム等の弾性体より成るベルト8で連結されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 軸受け部と、該軸受け部に設けた主軸の周りに回転自在な主車輪と、前記軸受け部上で前記主軸から離れた位置に設けた補助軸の周りに回転自在な補助車輪とを備え、該補助車輪は前記主車輪が走行する床面から離れた位置にあり、前記主車輪と前記補助車輪とをそれぞれの外周においてベルトにより連結した事の特徴とするキャスター。

【請求項2】 前記ベルトの張力を調整するためのアジャスターを設けた事の特徴とする請求項1に記載のキャスター。

【請求項3】 前記軸受け部は旋回軸を有していて、前記主車輪がキャスターの走行方向に沿うように、前記軸受け部が前記旋回軸の周りに旋回する事の特徴とする請求項1又は請求項2に記載のキャスター。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、走行中の通路に存在する段差等の障害物を乗り越えやすくしたキャスターに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、例えば車椅子或いは台車若しくはテーブル等には、使用者がそれらの移動を楽でスムーズに行う事ができるように、キャスターがよく用いられている。即ち、例えば車椅子においては前輪として、台車においては荷台の下面に、テーブルにおいては脚の下部にそれぞれ使われており、前記目的を果たしている。その内、車椅子における従来のキャスターの使用例について説明する。

【0003】図5は、一般的な車椅子の形態を表す側面図である。同図において、車椅子20の座部23に使用者が腰掛け、後部左右に設けられた後輪21を手動で回転させて床面9を走行する場合、或いは介助者が取っ手24を持って走行させる場合に、前輪として車椅子20の前部下側左右に設けられたキャスター22がそれに応じて回転するので、これにより車椅子20の移動を楽に、またスムーズに行う事ができる。

【0004】図6は、このキャスター22を詳細に示す側面図である。同図に示すように、軸受け部1'の上面より上方に向かって旋回軸2が延びており、その先端には車椅子20本体側に対する抜け止め用ナットをはめ込むためのネジ部3が設けられている。また、軸受け部下部には回転軸4'が取り付けられており、その周りに回転自在に車輪5'が設けられている。このとき、旋回軸2と回転軸4'はその延長線上においても交わる事はなく、所定の距離だけ離れている。

【0005】今、車椅子20の走行に応じてキャスター22が矢印aで示す方向に走行すると、前記のように旋回軸2と回転軸4'は所定の距離だけ離れているので、車輪5'と床面9との摩擦力により、軸受け部1'が旋

回軸2の周りに矢印bのように旋回し、回転軸4'は矢印aで示す走行方向と逆の側に回り込み、車輪5'は必ず走行方向に沿って矢印cのように回転する事になる。このように、従来より、摩擦が少なく効率の良い回転が行われるようなキャスターが実用化されている。

【0006】尚、キャスターの使用状態により、必ずしも軸受け部を旋回させなくても良いところ、例えば台車の後輪等には、旋回軸がなくて軸受け部を直接本体側に取り付けて固定する形式のキャスターが使用される。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記のような構成では、走行中の床面に敷居等の段差が少しでもあると、それを乗り越えるために非常な労力が必要となる。例えば、図7に示すように、床面9上に敷居11があり、それを乗り越えようとする場合、車輪5'の外径が相当に大きなものでない限り、敷居11の角部と車輪5'との接触角度θが大きいのとなり、非常に登りにくいものになってしまう。特に、車椅子の場合で、乗っている使用者が独りで段差を乗り越えようとするときは、車椅子を自分で持ち上げるわけにもいかないのので、僅か2～3cmの段差でも走行が殆ど不可能となる場合も生じる。

【0008】本発明は、上記問題点を解消し、段差があっても少ない労力でスムーズに走行する事が可能となるキャスターを提供する事を目的とする。

【0009】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明では、軸受け部と、その軸受け部に設けた主軸の周りに回転自在な主車輪と、前記軸受け部上で前記主軸から離れた位置に設けた補助軸の周りに回転自在な補助車輪とを備え、その補助車輪は前記主車輪が走行する床面から離れた位置にあり、前記主車輪と前記補助車輪とをそれぞれの外周においてベルトにより連結した構成とする。

【0010】また、前記ベルトの張力を調整するためのアジャスターを設けた構成とする。さらに、前記軸受け部は旋回軸を有していて、前記主車輪がキャスターの走行方向に沿うように、前記軸受け部が前記旋回軸の周りに旋回する構成とする。

【0011】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態について、図面を参照しながら説明する。図1は、本発明の一実施形態の基本的な構成を示す側面図である。同図において、1は軸受け部であり、その後部下端には主軸4が設けられており、その周りに回転自在に主車輪5が備えられている。また、軸受け部1の前部下端には補助軸6が設けられており、その周りに回転自在に補助車輪7が備えられている。この補助車輪7は主車輪5が走行する床面9から離れた位置に配置されている。そして、主車輪5と補助車輪7は、それぞれの外周においてゴム等の

弾性体より成るベルト8で連結されている。

【0012】さらに、軸受け部1の上面より上方に向かって旋回軸2が延びており、その先端には本体側に対する抜け止め用ナットをはめ込むためのネジ部3が設けられている。このとき、旋回軸2と主軸4はその延長線上においても交わる事はなく、所定の距離だけ離れている。この旋回軸2については必ずしも図のような形にこだわるものではなく、本体側との取り付け状態及び軸受けの形式に応じて様々な形のものが使用される。

【0013】今、車椅子等の本体側の走行に応じて本発明のキャスターが矢印Aで示す方向に走行すると、前記のように旋回軸2と主軸4は所定の距離だけ離れているので、主車輪5と床面9との摩擦により、軸受け部1が旋回軸2の周りに矢印Bのように旋回し、主軸4は矢印Aで示す走行方向と逆の側に回り込み、主車輪5は必ず走行方向に沿って矢印Cのように回転する事になる。尚、上記従来の技術でも述べたように、キャスターの使用状態により、必ずしも軸受け部を旋回させなくても良いところ、例えば台車の後輪等には、旋回軸がなく軸受け部を直接本体側に取り付け固定する形式のキャスターが使用される。

【0014】主車輪5が矢印Cのように回転すると、その回転がベルト8により補助車輪7に伝達され、補助車輪7が矢印Dのように主車輪5と同じ方向に回転する。このとき、同図に示すように、ベルト8下部の直線部分は床面9と角度 α を成しているの、これを上記従来の技術で示した角度 θ と比較して充分に小さく設定しておけば、図に示す床面9上に数層11があったとしても、それを乗り越える事ができる。

【0015】さらに、図の一点鎖線で示す数層12のように段差の高いものがあったとしても、その角部がベルト8下部の直線部分にかかる範囲である限り、同様にしてそれを乗り越える事ができる。角度 α は小さければ小さいほど段差を乗り越える際の労力が少なく済むが、その場合、主車輪5と補助車輪7との距離を大きくしない限り、乗り越えられる段差の高さが限られたものになってしまうので、これらの配置関係を勘案して最適な設定が行われる。

【0016】図2は、主車輪5及び補助車輪7を正面より見た例を示す図であり、同図(a)はベルト8の断面が丸形の場合、同図(b)はベルト8の断面がV字形的場合である。これらの図に示すように、主車輪5及び補助車輪7は、その外周にベルト8(一点鎖線で示す)を掛けるための溝を設けており、いわゆるブリーの形をしている。同図(a)の場合は、断面が丸形のベルト8を掛けるために、溝が半円形となっており、同図(b)の場合は、断面がV字形的のベルト8を掛けるために、溝もV字形となっている。ベルト8の断面及び各車輪の溝の形は、この例に限らず様々なバリエーションが考えられる。

【0017】ベルト8の材質としては、クッション性を持たせるために、ゴム等の弾性体が用いられる。また、伸び縮みを少なくし、耐久性も向上させるために、中に心体としてスチール等を入れても良い。さらに、ベルト8の断面がV字形をしている場合、クッション性を向上させるために、図3に示すように外周に膨らみを持たせても良い。尚、軸受け部1は、図2に二点鎖線で示すように、正面から見るとコの字形をしており、各車輪の左右に跨って、車軸を両側で受けるのが一般的である。勿論この形にこだわるわけではなく、車軸を片持ちにする事も考えられ、その場合はベルト8の交換が容易となる。

【0018】図4は、本発明のキャスターに、ベルトの張力を調整するための機構を設けた一例を示す図である。同図に示すように、軸受け部1の上部より下側に向かってアジャスター10が延びており、これをベルト8の外周に押しつけてその長さを調整する事により、ベルト8の張力を追加、調整する仕組みになっている。アジャスター10の先端にはローラーが設けられており、ベルト8に余計な摩擦力が加わりにくいようになっている。但し、この構成にはこだわるものではなく、アジャスター10をベルト8の内周に押しつけるようにしても良いし、軸受け部1上の補助軸6の取り付け穴を長穴とし、主車輪5と補助車輪7との距離を調整する事により、ベルト8の張力を調整するようにしても良い。

【0019】尚、本発明のキャスター使用時に、ベルト8の車輪に巻き付いている部分の外周には、特に大きな張力が加わるので、その部分でベルト8が裂けたりする事を防止するために、図8に示すように、ベルト8の外周に、予め矢印で示すような切り欠きを加えた構成にしても良い。

【0020】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、段差があっても少ない労力でスムーズに走行する事が可能となるキャスターを提供する事ができる。また、既存のキャスターと互換性を持たせるように設計しておけば、既存の本体に本発明のキャスターを付け替えるだけで良いので、手軽に本発明のキャスターを使用し、普及させる事ができる。

【0021】また、請求項2によるならば、ベルトの張力を常に最適の状態にして使用する事ができるので、キャスターとしての安定した性能を発揮させる事ができる。さらに、請求項3によるならば、主車輪が必ず走行方向に沿って回転するので、摩擦が少なく効率の良い回転を行わせる事ができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態の基本的な構成を示す側面図。

【図2】主車輪及び補助車輪を正面より見た例を示す

図。

【図3】Vベルトの外周に膨らみを持たせた例を示す図。

【図4】ベルトの張力を調整するための機構を設けた一例を示す図。

【図5】一般的な車椅子の形態を表す側面図。

【図6】従来のキャスターの例を詳細に示す側面図。

【図7】従来のキャスターと数居との関係を示す図。

【図8】ベルトの外周に切り欠きを加えた様子を示す図。

【符号の説明】

* 1 軸受け部

2 旋回軸

3 ネジ部

4 主軸

5 主車輪

6 補助軸

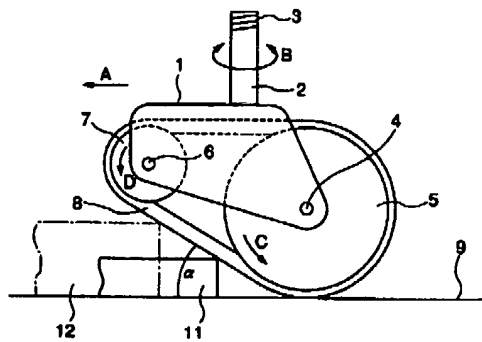
7 補助車輪

8 ベルト

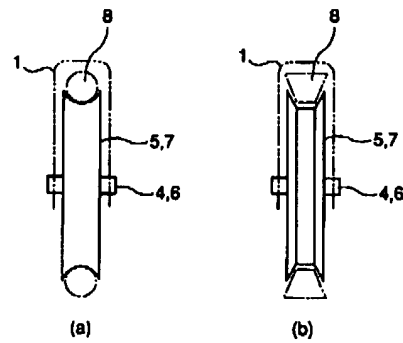
9 床面

*10 10 アジャスター

【図1】



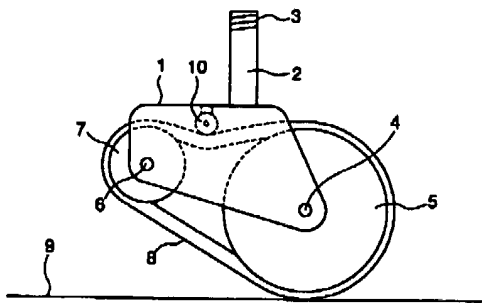
【図2】



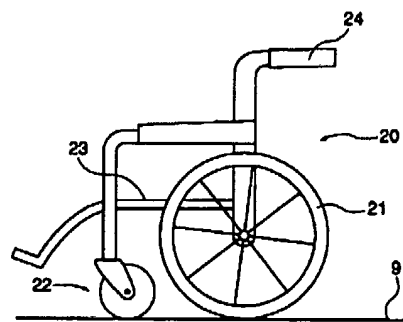
【図3】



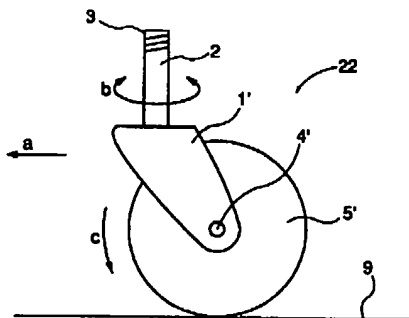
【図4】



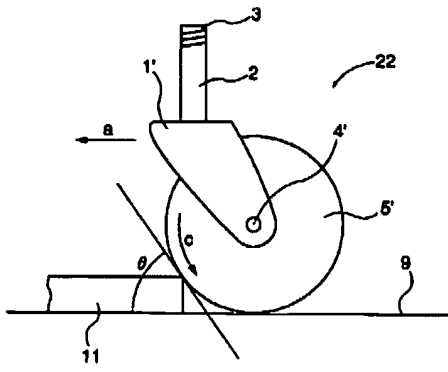
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

